

日本語における「空」という漢字の熟語の分析

(形態論及び意味論によるの分析)

梗概

序論

漢字は日本語から切り離すことのできない文字一つである。日本語にはひらがなやカタカナがあるが、日本語を書く場合、それだけでは不十分である。「空」という漢字があるが、これにはいかなる意味があり、またこの字をもってどのような熟語があるか研究分析する必要がある。

上記の理由に基づき本論文では、「空」を含んだ熟語を形態的にまた意味的に見て分析してみることにする。

本論

昔の中国人は「空」というものを大きな穴だと思っていたのである。そのため、当字の上の部分「穴」と書いたのである。この「穴」は非常に深く、そのため「穴」の下部分を長い縦横線で示すのである。また「空」には何もないというので、「から」という意味が出てくるのである。(Takebe, 1993:119)

形態論は、語構成を研究する分野である。(Ikegami, 1998:60)

一方意味論は、文単語形態素の意味を主題に研究する分野である。熟語というのは、二つ以上の漢字が一つになって新しい意味を持ったものになったものである。熟語字音及び字訓からなる。つまり、熟語は語基と

いうものからなるのである。語基は、名詞、動詞、形容詞、形容動詞からなる。語基と語基とが一つになって新しい語を作るのである。(漢字のいろいろ; 2003:74)

「空」という字を含んだ熟語を見てみると、次のような特徴がある：

1. 品詞による熟語：
 - a. 名詞 + 名詞：空模様空色天空。名詞になる
 - b. 形容詞 + 名詞：寒空、大空、青空。名詞になる
2. 訓読みによる熟語：闇空、星空、秋空。
音読みによる：空中、碧空、航空便。

意味から見て、「空」は次のようないみを有するようである。「から」という意味での特徴は次のようなものである：

1. 名詞 + 名詞からなったもの：空振り、空き店、空腹。名詞になる
2. 訓読みによるもの：空き地、空箱、空き家、空き巣。
音読みによるもの：空想、架空、空白。

比喩的ないみを持った「空」は次のような特徴を有している：

1. 品詞による熟語：
 - a. 名詞 + 名詞：空手、空軒、空目。名詞になる
 - b. 名詞 + 動詞：空寝る、空死ぬ。動詞になる
 - c. 名詞 + 形容詞：空恐ろしい。副詞になる

比喩的な意味を持った「空」は常に訓読みで読む：空耳、絵空事、空似、空泣く。

結論

「空」という字を含んだ熟語を分析してみた結果次の結論を引き出すことができる：

1. 形態的に見て：名詞 + 名詞、名詞 + 動詞、名詞 + 形容詞からなるもの。
2. 意味から見て：文字通りの意味及び比喩的な意味がある。